

平成22年度病害虫発生予察指導情報

対象病害虫：セジロウンカ、トビイロウンカ（No.1）

平成22年7月27日
鳥取県病害虫防除所

1 セジロウンカ

(1) 発生状況

ア 6月19日以降、予察灯への誘殺が連続して確認されている。7月第4半旬現在、予察灯への総誘殺数は平年と比較して多い。また、7月11～15日には多飛来が確認された。

イ 7月21～23日に行ったウンカ類常発地における定点（10地点）巡回調査の結果、発生ほ場率は100%（平年：82.1%）で平年より高く、1株当たり平均成幼虫数は8.1頭（平年：6.0頭）で、平年と比較してやや多かった。

ウ 現地ほ場での発生の主体は成虫及び若齢幼虫であり、中～老齢幼虫も少数混在している。また、県西部を中心に成虫密度の高いほ場が認められている。

(2) 防除上注意すべき事項

ア 沿岸部等のウンカ類常発地では、今後、幼虫密度がさらに高まるので、幼虫最盛期に7月末～8月上旬、要防除水準（成・幼虫数10頭/株）を超えた場合は、病害虫防除指針等を参考にして防除を行う。特に、中生品種栽培ほ場等、8月上旬までに穂ばらみ期防除を実施しないほ場では、本種の発生状況に十分注意する。

イ 8月上旬頃までに穂ばらみ期防除を実施するほ場では、殺虫・殺菌混合粉剤などを用いて、本種、いもち病及び紋枯病等を同時防除する。

2 トビイロウンカ

(1) 発生状況

ア 7月第4半旬現在、予察灯への飛来は認められていない。

イ 7月23日現在、現地ほ場での発生は認められていない。

(2) 防除上注意すべき事項

7月23日現在、本種の防除が必要である地域はないものと考えられる。しかし、7月11～15日のセジロウンカの飛来にトビイロウンカが混在していた可能性もあるので、ウンカ類常発地では今後の発生状況などに注意する。